

令和3年4月

戦略的創造研究推進事業（社会技術研究開発）

科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム プロジェクト企画調査事後評価報告書

「科学技術の倫理的・法制度的・社会的課題（ELSI）への包括的実践研究開発プログラム」
プログラム総括 唐沢 かおり

1. 課題代表者

後藤 基行（立命館大学 大学院先端総合学術研究科 講師）

2. 課題名

医療におけるトランスサイエンス問題の政策史研究とアーカイブズ構築

3. 実施期間

令和2（2020）年9月1日～令和3（2021）年3月31日

4. 事後評価結果

プロジェクト企画調査の目標達成状況

本企画調査は、トランスサイエンス問題としての医療政策史を対象とし、(1)歴史的なエビデンスを提供する知的インフラの構築を目指した政策史・制度史研究としての目標の具体化、(2)一次資料の収集・デジタル化とアクセシブルな Web サイトの構築、(3) 医療アーカイブズの運用に資する文書管理規定の収集と検討、を目標として実施されたものである。当プログラムにおけるプロジェクト企画調査として、トランスサイエンス問題としての問題設定や、ELSI 研究としての研究開発要素の同定と論点の明確化、ならびに政策史研究やアーカイブズの実装の道筋に関する構想の具体化などの点の強化を期待した。

企画調査の結果、医科学というサイエンスの実践をトランスサイエンス問題として捉え、日本の医療・ヘルスケア政策史を対象とした基礎的調査・検討と、アーカイブズの意義についての体系的検討などが着実に推進されている。病床供給、難病医療政策、社会福祉政策、傷痍軍人医療・福祉政策、精神疾患などに関する重要資料のアーカイブ化と、それぞれのテーマについて緻密な調査・分析から興味深い示唆が得られており、本企画調査の目標は、一部残る課題はあるが概ね達成したと評価する。今後さらに、各テーマから提起される ELSI を横断的に分析し、各テーマに通底するアーカイブズの意義や必要性を明確化するなど、個別の研究開発の視点を総合的・包括的にとりまとめる研究開発の方向性が重要である。全体構想のスケールアップと研究開発アプローチの具体化が進展することを期待する。

以上

(別紙) 評価者一覧

〈プログラム総括〉

唐沢 かおり 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

〈プログラムアドバイザー〉

大屋 雄裕 慶應義塾大学 法学部 教授

四ノ宮 成祥 防衛医科大学校 学校長

中川 裕志 理化学研究所 革新知能統合研究センター
社会における人工知能研究グループ チームリーダー

西川 信太郎 株式会社グローカリンク 取締役
／日本たばこ産業株式会社 D-LAB プロデューサー

納富 信留 東京大学 大学院人文社会系研究科 教授

野口 和彦 横浜国立大学 先端科学高等研究院 リスク共生社会創造センター 客員教授

原山 優子 理化学研究所 理事／東北大学 名誉教授

水野 祐 シティライツ法律事務所 弁護士／慶応義塾大学 SFC 研究所 上席所員

山口 富子 国際基督教大学 教養学部 アーツ・サイエンス学科 教授

(所属・役職はすべて 2021 年 3 月末時点)